

横浜康継氏が第4回海洋立国推進功労者表彰（内閣総理大臣賞）を受賞

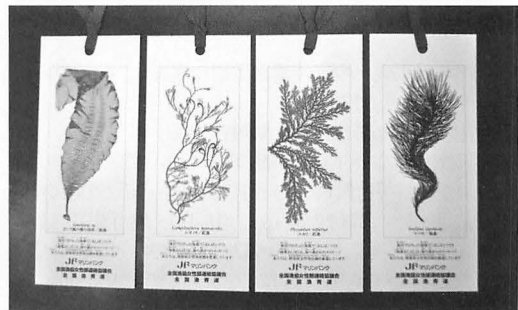
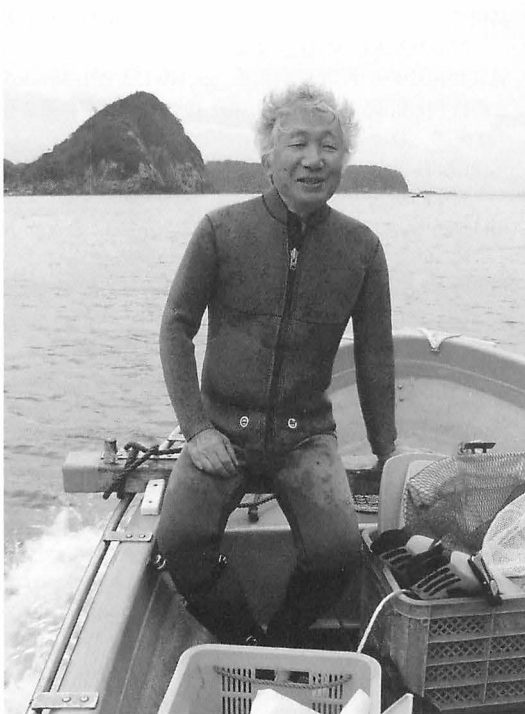
平成23年7月15日に横浜康継先生（元南三陸町自然環境活用センター長）が第4回海洋立国推進功労者表彰（海洋に関する顕著な功績分野、自然環境保全部門）を受賞されました。功績として、「海藻押し葉を用いた自然環境教育活動」があげられました。学術的な目的でしか作成されてこなかった海藻のさく葉標本を誰でも簡単に楽しめる魅力的な「海藻おしば」に変えたことが社会的に貢献したと認められました。

海藻採集や押し葉作成には歴史があり、その昔の採集は陸上植物と同じように胴乱に採集した海藻を入れて、その日のうちに標本を作る必要がありました。標本作成中も毎日吸い取り紙を交換しないとカビが生えてしまう、など面倒なことが多々ありました。その後、通風乾燥することで、手間をかけずに作成することができるようになり、さらに冷凍することで、旬の時期の形のいい材料をいつまでも保存しておけるようになりました。これらを積極的に利用し、誰でもできる「海藻おしば」に仕上げたのが先生です。さらに、できあがった

おしばをラミネート加工することで葉書や葉などの日常生活にも普及させることにも尽力し、成功させています。私も大学のオープンキャンパス、地域の小中学生の夏休み体験教室、博物館実習、臨海実習などで大いに利用させて頂いております。おしばを作り始めると、それまで騒いでいた生徒や学生も黙々と作業をし続け、その姿と変容はとても感動的です。

横浜先生は静岡県下田市にある臨海実験所に35年、宮城県南三陸町の自然活用センターに10年という、勤務地の利点を生かして海藻とともに暮らしてほぼ半世紀という海藻人生です。大学人として普通はあり得ない先生の人生は、誠にうらやましい限りです。

今回の大津波により上記活用センターに保存されていた海藻おしば用の貴重な材料の全てが失われてしまいましたが、また新たに海藻の採集から始めようとしている先生の気概には感じ入ってしまいます。今後も新たな視点からの「海藻おしばの芸」に期待したいと思っております。（田中次郎）



静岡県下田市で調査中の横浜康継先生（左と右上、2011年10月5日）と海藻しおり（右下）

海洋立国推進功労者表彰

海洋立国推進功労者表彰は科学技術、水産、海事、環境など海洋に関する幅広い分野における普及啓発、学術・研究、産業振興等において顕著な功績を挙げた個人・団体を表彰する制度で、文部科学省、農林水産省、経済産業省、国土交通省および環境省が内閣官房総合海洋政策本部事務局の協力を得て実施しています。